

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 真誠会	代表者	理事長 前田 浩寿	法人・ 事業所 の特徴	医療法人・社会福祉法人真誠会は、保健・医療・福祉のサービスに対応したホスピタウン ネットワークと、多くの資格取得者で構成されています。 真誠会医療福祉連携センターを中心に、米子（河崎）、弓浜（大崎）、富益、和田それぞれ がネットワークで繋がり、サービスの提供を行っております。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護 浜の絆	管理者	石田理香		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	12人	0人	0人	2人	0人	1人	1人	18人

項 目	前回の改善計画（自己評価）	前回の改善計画に対する取組み・結 果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	次年度は1月早めの取組みを行 い、会議内でサービス評価の説明 を改めて行う	年度途中で管理者が交代し、自己 評価の進捗管理や定期的な振り 返りが十分に行えなかった。計画 的な経過確認や目標修正の機会 を設けることができず、職員の自 己評価も前向きな振り返りにつ なげるまでには至らなかった。結 果として、計画の実践状況は不 十分であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命、まじめに取り組んで いる様子が伝わった。 ・あまりできていない、ほとんど できていないとの評価をつけて いる職員が多数いるが、もっと自 信を持って良いと感じた。 	<ol style="list-style-type: none"> ①今年度の9項目の改善計画に取 組み 12 月には事業所自己評価の 実践を行う。 ②4 半期ごとに経過を確認し達成 困難な目標については理由を確認 し、無理なく実行可能な目標へ 見直す。 ③事業所の強みやできている点 を明確にし、前向きに振り返る機 会を設け職員の自信につなげる。
B. 事業所の しつらえ・環境	運営推進会議で改めて施設内の 見学、説明を次年度に入れる	運営推進会議での見学機会の設 定や環境説明について、具体的 な実施まで至らなかった。安全管 理や感染症対策は継続して実施 していたが、地域への説明や可 視化は十分ではなかった。計画 の周知・実行体制が弱く、実践 が限定的であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・外から様子が見える点は安心感 につながっている。 ・実際に室内を見学できる機会が あれば、より理解が深まる。 ・季節感や家庭的な雰囲気づくり が出来ていて良いと思う。 ・感染症対策や安全面への配慮は 必要だと思う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①運営推進会議時に施設内見学 の時間を必ず設け、環境面の説 明を行う。 ②日中の施設方針（安全確保と の両立）について文書および口 頭で説明する。 ③地域住民や家族が立ち寄りや すい雰囲気づくり（掲示物・案 内表示）の継続。 ④「わからない」と回答した方 が減少することを次年度の評価 目標とする。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>運営推進会議内で他施設含め相談内容の事例を紹介するお茶会にて施設の概要を説明し、地域の方々へ周知して頂く</p>	<p>地域行事参加や情報発信について、継続的な取組み体制を構築できなかった。お茶会での説明も十分な時間確保ができず、活動の見える化は限定的であった。管理体制変更の影響により、計画的な地域連携推進が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりは感じるが、具体的な活動内容が見えにくい。 ・相談事例や支援内容をもっと具体的に知りたい。 ・行事への参加状況や地域貢献の取組みを発信してほしい。 ・気軽に立ち寄れる機会が増えるとうよい。 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域行事への参加状況をお便りや掲示物等で発信し、活動の見える化を図る。 ②月2回のお茶会で、事業所機能や相談内容の具体例を説明する時間を設ける。 ③職員へ地域活動参加の目的を周知し、年間計画に位置づけ、継続的に取り組む
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>事前に各公民館の年間行事予定を確認し、浜の絆の年間行事予定に入れ参加を増やす 全職員で持ち回り行事へ参加する</p>	<p>公民館行事等の年間把握や全職員参加体制の整備まで至らなかった。個別的な地域支援は実施していたが、組織的・計画的な取組みとして定着できなかった。管理者交代に伴い、地域連携の優先順位が一時的に低下したことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外出や地域交流の機会は増やせないものか。 ・ケアマネジャーや管理者だけでなく、全職員が地域と関わる機会を持つことが必要。 ・地域の公民館活動や町内会行事に積極的に参加してはどうか。 ・事業所の取組みを地域へ発信していくことが大切。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各公民館等の年間行事予定を把握し、年間計画へ位置付ける。 ②地域行事への参加を担当制・持ち回り制とし、全職員が関わる体制を構築する。 ③近隣の心配な方への声かけや見守り事例を共有し、地域包括支援センター出張所としての役割を積極的に担う。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>会議資料に前回の議事録をつけその中に前回のご意見に対する対策、現状を入れる</p>	<p>前回意見への対応状況を資料に明確に反映する取組みが徹底できなかった。会議は開催したもの、意見を継続的な改善へ結びつける仕組みづくりが不十分であった。計画と実践の連動性に課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜の絆で実践した具体的な支援事例を、紹介してほしい。 ・地域の困りごとを共有し、事業所として何ができるか話し合う場にしてはどうか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①会議資料に「前回意見への対応状況（実施・継続・未実施理由）」を記載する。 ②地域と共同で実施可能な取組み（行事参加・見守り協力等）を年間目標として設定する。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>会議で防災計画の説明を行う</p>	<p>防災計画の周知や具体的な説明、地域参加型訓練の実施には至らなかった。備蓄や避難体制は整備していたが、地域への説明・共有が不足していた。管理体制変更により、防災に関する外部発信が後回しとなった点は反省すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画を分かりやすく説明してほしい。 ・地域の方も参加できる防災訓練を実施してはどうか。 ・災害時の連絡体制を知りたい。 ・非常食や備蓄状況はどうなっているのか。 ・事業所が地域の防災拠点としてどのような役割を担うのか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①防災計画を運営推進会議にて説明し周知する。 ②災害時の連絡体制・避難経路・備蓄品一覧を明文化し、運営推進会議で報告する。 ③地域の防災訓練への参加を年間計画に位置付ける。 ④訓練実施後は振り返りを行い、改善点を次回運営推進会議で報告する。